

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.182 2012.9.1



馬場家住宅
15年の歩み

9月15日①

10月14日②

もくじ	◇ 展覧会紹介 ◇ 重要文化財馬場家住宅開館15周年記念特別展	2-3
	◇ 企画展紹介 ◇ 考古博物館秋季企画展「施文の美 ～太古の芸術、縄文土器～」...	4-5
	◇ 博物館ノートから ◇ 旧開智学校新収蔵資料紹介「手塚佳子日記」	6
	◇ 博物館TOPICS ◇ 資料調査報告 一香時計一	7
	はんでんぼく	8

重要文化財馬場家住宅開館15周年記念特別展

1 はじめに

重要文化財馬場家住宅は、今年で開館15周年を迎えました。これを記念して、特別展「馬場家住宅15年の歩み」を開催します。博物館として開館する前の様子、周囲の自然やこれまで行ってきた企画展や体験教室、コンサートなどの事業もあわせて、写真やパネルで紹介するものです。

2 馬場家住宅活動15年の軌跡

馬場家住宅では文化財の保存と活用に主眼を置いて博物館活動を進めています。訪れる人々に、貴重な民家建築を見学していただくことはもちろんのこと、体験学習活動や地域の民俗、建造物について学習する講座や講演会なども実施しています。以下、活動の様子を6つのテーマにわけて紹介します。

◆知る

馬場家住宅を活用して地域文化を伝承していく活動の一つとして、季節ごとに企画展を開催しています。とりわけ、春の押絵雛展、夏の七夕人形展は馬場家住宅の中心的な展示活動です。訪れる皆さんに松本地域の伝統文化を紹介するとともに、本棟造りの民家にマッチした展示はふだん感じることでできない季節を感じさせます。



◆学ぶ

園児の遠足や小学校の社会見学、中学校の職場体験などを受け入れています。昔の建物や道具を実際に見たり、触れたりしてもらうことで、子ども達が「むかしの暮らし」をより理解できる学びの場となっています。また、馬場家住宅での体験型の学習は、子ども達に博物館をより身近に感じていただく活動ともいえます。



◆作る

最近の活動に、はた織りや布ぞうり作りなど、モノ作り体験の教室があります。年々内容を変えつつも多くの皆さんにご参加いただいています。モノ作り体験教室は「大人の学び」という考え方もできます。先に紹介した子ども達の学びとあわせて、馬場家住宅は生涯学習の場としても活用されています。



◆見る

樹齢800年と言われる大ケヤキをはじめ、広大な屋敷林と草花に囲まれた馬場家住宅は四季折々の美しさを見せてくれます。



◆ 聴く

定番となっている主屋のピアノによるコンサートのほか、大正琴・三味線などの演奏や歴史講座を開催してきました。



◆ 守る

平成22年には、開館以来初となる大がかりな保存修理工事を実施しました。文化財には様々な保護の手法があります。かつては、文化財を“もと”の状態に保つことが保護であると考えられていました。しかし、最近では活用することが重要であると考えられています。地域おこしや生涯学習活動の拠点として活用することで、文化財の社会的存在意義を高めることができるからです。この意義を高めることは、文化財が地域によって守られていくことにつながります。今回の保存修理工事は、建物の魅力をより引き出し、快適に活用するための工事ともいえます。その工事の表門の瓦交換や文庫蔵の壁を補修する様子などを、特別展で紹介します。



3 関連事業

特別展の他、会期中に行う主なイベントを紹介します。

ピアノコンサート

ふだんは奥まった所に置かれ、なかなか目にすることはありませんが、馬場家住宅の主屋には、ドイツ製の古いグランドピアノ（1900年頃製造）があります。「ピアノでつづる日本の音」がテーマの今回のコンサート。ホールなどで聴くのと違い、古民家に響くピアノの音色を楽しんでみませんか？

お茶席の会

開館以来続く人気の事業で、細かい作法なんてわからないという方にも、気軽に抹茶を楽しんでいただいています。通常、主屋を会場としていますが、9・10月のお茶席は、少々趣向を変えての開催となる予定です。

古民家バス見学会

今年の目的地は、お隣の塩尻市と辰野町です。塩尻市内には、重要文化財に指定されている古民家がなんと6カ所もあるのです。このうち4カ所を一日で回ろうというのが今回の見学会です。所有者の方からどんな話が聞けるのか？馬場家住宅との違いは？など楽しみはいろいろです。

記念講演会

お待たせしました。5年振りとなる講演会開催です。講師は、松本大学総合経営学部の佐藤博康教授です。演題は「松本のクールを探そう」。馬場家住宅の利活用に関して語っていただく予定ですが、どんな話が飛び出すのか？大勢の皆様のご来場をお待ちしています。

4 おわりに

5年毎に行われてきた記念事業ですが、今回は20周年に向けて、これまで以上に博物館の事業を展開したいと思います。これまで多くの皆さんに支えられての15年間でしたが、これからも感謝の気持ち忘れずに、馬場家住宅らしい事業を積み重ねていきます。

(馬場家住宅／門野博之)

「馬場家住宅15年の歩み」 9月15日㊥～10月14日㊥

関連事業	
ピアノコンサート	9月16日㊥
お茶席の会	9月22日㊥
古民家バス見学会	9月23日㊥
記念講演会	9月29日㊥
	10月14日㊥

考古博物館秋季企画展 「施文の美～太古の芸術、縄文土器～」

松本市立博物館で今秋に縄文土器をテーマにした「縄文の美と力」展を開催します。松本市立考古博物館では、この企画展と連携し、縄文土器の文様に注目し、縄文時代の「美」について探る秋季企画展を開催します。

1 考古博物館の縄文土器

縄文土器は今から約1万数千年前から2千数百年ほど前までに、日本列島で使われていました。

松本市内においても広い範囲で発見されています。

考古博物館には「散歩中に破片を拾った」、「畑を耕していたら破片が出てきた」ので鑑定してほしいといったお問合せも、年に数回よせられます。

考古博物館における縄文土器の収蔵量はたいへん豊富で、破片も含めれば数万点を数えます。

このように、豊富な収蔵量を誇る考古博物館の縄文土器ですが、常設展示室には、空間上の制約があり、完形に近いものしか展示していません。

そのため今回の企画展では、これまであまりスポットをあてていなかった破片資料を含め、芸術的な文様のある土器を紹介し、縄文人の「美」をご覧ください。

2 様々な施文

縄文土器に文様をつけることを施文せもんといいます。「縄文」というと、縄を器面に転がして、文様をつけただけと考えがちですが、竹ベラのような道具を用いたり、粘土をひも状にのばしたものを器面に貼りつけたり、なかには、貝殻をつかっているものまであり、文様のつけかたは多様です。

松本市内の発掘調査でも、様々な文様の縄文土器が発見されています。

松本平を中心に、中部高地に広く分布するのは唐草文系と呼ばれる土器です。典型的なものは、幾重もの直線を肋骨のように描き、そこに渦巻状の文様を組み合わせた文様です。直線はヘラ状の道具を用いてつけられたと考えられ、また渦巻状の文様は、粘土をひも状に伸ばしたものを巻きつけた、あるいは、はんさいちくかん半裁竹管と呼ばれる竹材を半分に割ったもので、二重線を付けるという方法によって描かれたと考えられています。

また、中山地区の南中島遺跡からは、菱形が規則的に施され、器面があたかも、菱形で区画されているような文様を持つ土器が発見されています。粘土ひもをはりつけることによって、いくつもの規則的な菱形の文様を形成しています。さらに、粘土ひもの周囲には、竹ぐしあるいは木の枝のような道具を押し付けた文様が施されており、粘土ひもでつくられた菱形文様が、立体的に見えます。

さらに、同じく内田地区の一ツ家遺跡から発見された土器には三つ編み状の文様の把手があります。植物のツルなどで編んだカゴなどを模したものでしょうか。粘土で作られた三つ編みには驚きをおぼえます。

そして、寿地区の石行遺跡いしぎで発見された土器片には貝殻を押し付けた文様が付されています。大変シンプルな方法の施文ですが、日常生活のなかにあるものを活用して文様をつけ、バリエーションを豊富にした、縄文人たちの精神性が垣間見える出土品といえるでしょう。

また、市内各所から、土器の底部に文様がついた土器が発見されています。

あじろ こん網代痕といわれる、あみ目の文様がついている



本郷地区・大村塚田遺跡出土の唐草文系土器



中山地区・南中島遺跡出土の土器片。器面が菱形に区画されている。



寿地区・石行遺跡出土の土器片。貝殻を押し付けた文様が施されている。



内田地区・一ツ家遺跡出土の土器。三つ編み状の文様がある。

もの、そして葉っぱのような文様がついているものがあります。

縄文土器製作の過程で、作り手が下に敷いていたものが、土器の重みで、底に拓本のようにその形状が写し出されています。

意図してつけられたものなのか、偶発的についたものなのかについては諸説あり、確言はできませんが、底についた文様も、縄文時代の生活を知る貴重な手がかりといえることができるでしょう。

今回の企画展では、ふだんは見ることのできない、こうした縄文土器の底も紹介します。



やしろまへ
左は中山地区・弥生前遺跡出土の土器の底部。葉っぱの葉脈がくっきりと刻まれている。
右は寿地区・石行遺跡出土の土器の底部。あみ目の文様がついている。

3 おわりに

考古博物館では秋季に毎年、土器づくり講座を開催しています。職員・参加者が一緒になって土器づくりを行うのですが、土器をつくるたびに難しさを実感します。とくに、施文は美しい湾曲や、幾何学的な文様を描かなければ美しい文様となりませんが、これがなかなかうまくいきません。

陶芸・土器作りに精通された方に考古博物館に展示されている土器を再現するとしたら、どれぐらいの時間が必要ですか、とお聞きすると、3か月や半年という気の遠くなるような答えがかえってきます。

縄文土器づくり講座に参加される方からは「縄文人ってすごいですね」という声が毎年聞かれます。縄文土器は、現代社会に暮らすわたしたちにはなかなか再現できない造形美を今に讃えています。

縄文土器の文様のつけ方は多様であると述べましたが、文様をつける道具、施文具の材料は、竹、木、貝殻、ひも、粘土ひもなど数種に限られています。縄文人たちは限られた道具のなかから、多様な

文様を編み出したのです。

今回の企画展では縄文時代の人々が生み出した「美」を、みなさまにぜひ味わっていただきたいと思います。

(考古博物館 学芸員／草間厚伸)

「施文の美 ～太古の芸術、縄文土器～」

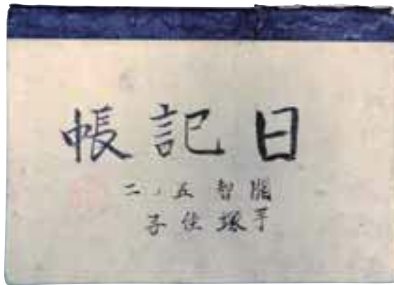
10月6日④～12月9日⑤

旧開智学校 新収蔵資料紹介「手塚佳子日記」

1 はじめに

本年、1冊の日記帳が寄贈されました。松本市開智国民学校の5年生女子児童が昭和20年（1945）4月から6月にかけて書いたものです。

8月から開催している特別展「戦時下の子どもたち～開智国民学校の資料を中心に～」でも展示していますので、ご覧になった方もいるかと思いますが、少しこの紙面を使って資料を紹介します。



日記帳表紙

2 日記にみる戦時下の子どもの暮らし

日記が書かれた時期は、日本が敗戦へと向かっていく只中です。そんな時期に地方都市の子どもが、何を考えながら生活をしていたのでしょうか。一番多いのは戦争と学校の様子が書かれています。日記中にみえる戦時下の子どもの生活について、考えてみましょう。

3 戦争のこと

終戦間際ということもあり、直接的に感じる空襲への恐怖、ラジオなどで聞いた戦況や海外情勢、それらを踏まえた上で、それでも最後は日本が勝つ（勝ってほしい）といった記載が随所に出てきます。それにしても、日記の中に「小磯内閣がおやめになった」などと出てきますから、この頃の小学生は新聞・ラジオからしっかりと情報を得ていたみたいですね。

4 当時の学校の様子

現在の小中学校は基本的に週休二日制ですが、少し前の世代になると、土曜日にも授業がありました。そうした中、学区内にある神社の例大祭の日は、学校が休みになったようです。氏子の子どもたちは、舞台を曳いたり、奉納の舞を舞ったのでしょうか。氏子でない子どもは、お祭りを見に行ったようです。昭和20年4月といえば、東京などの大都市は空襲によって焼け野原となっていました。松本のような地方都市では、戦時下でもそんな風景があったことを示しています。

5 当時の日記の決まりごとと方言

これは担任の先生の方針かもしれませんが、一日

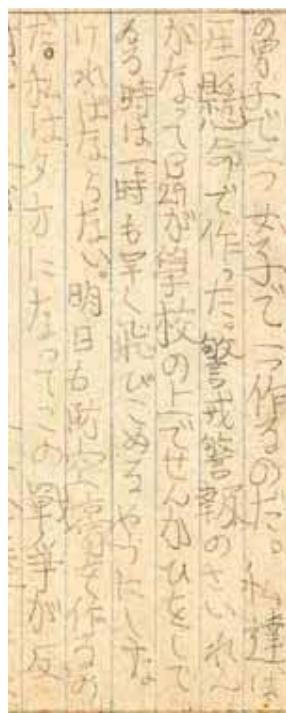
の記録の後に必ず書かなくてはいけない言葉がありました。

- ◆悪いことはしなかった。
- ◆二度以上注意は受けなかった。
- ◆みんな楽なことだった。
- ◆お父さんお母さんに呼ばれたときは返事をした。当時の担任の先生は、一日の終わりを振り返った時に、どうだったのかを反省する意味を子ども達に持たせていたのでしょうか。
- ◆今の松本の子ども達は、方言を使いたがらない傾向にありますが、この日記の中では、いうなれば「松本弁丸出し」といった表現も多くみられ、興味深いものがあります。今の子どもたちに通じるのでしょうか。いくつか挙げてみましょう。
- ◆とんでった → 走って行った
- ◆ふんとに → 本当に
- ◆引っ張りくら → 引っ張りっこ＝引っ張り比べ

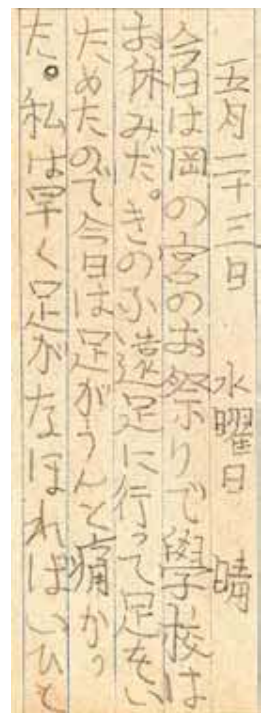
6 おわりに 一何を感じるか

今回は一部分しか紹介できませんでしたが、こうして日記を読んでいると、この頃の子どもの様子がよくわかります。今後、この日記の読み込みを進め、全容と資料としての日記の魅力について紹介したいと思います。

(旧開智学校校舎学芸員／澤柳秀利)



4月16日の日記「B29が学校の上で旋回をしてい



5月23日の日記「画のお祭りで学校はお休みだ」

資料調査報告 —香時計—

時間を香で知ることができる「香時計」を知っていますか。時香盤（じこうばん）、香盤時計（こうばんどけい）とも呼ばれるこの時計は、古くは寺院などで香または火を絶やさないために使われていました。そして江戸時代には数多くの香時計が広く普及しました。

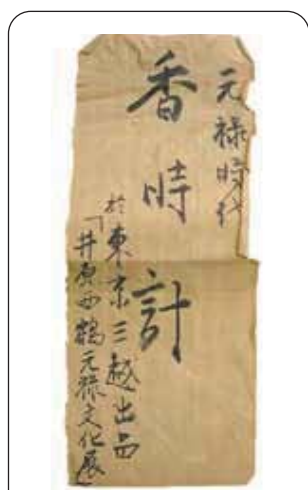
香時計で時間を知る仕組みは単純なものです。線香や抹香（粉末のお香）は一定の速度で燃えるため、お香が燃えた長さによって時間の経過を知ることができるのです。

時計博物館では、以前から常設展で香時計を展示しています。しかし、その使い方については詳しく検証していませんでした。そこで、今年の時の記念日に、香時計の使い方を調べてみることにしました。

一般的に香時計の使い方は、①灰をならした上

に香型を置き、抹香を香型に彫られた溝の中に流し込む。②香型をどけると、灰の上に短冊形に折れ曲がった抹香の線条が残るので、これに火をつけて使う。と説明されますが、実際には説明のようにはうまくいきません。香時計の引き出しに入っている道具の使い方がわからないため、時計博物館の職員で、あれやこれや言いながら試行錯誤を重ねました。また、寺院や実際に香時計を使った講座を実施したことのある博物館などにも問合せをしました。その甲斐あって、常設展に展示されている香時計の使い方を明らかにすることができました。この成果は常設展で紹介しているので、ぜひ時計博物館にご来館ください。

（時計博物館職員一同）



展示会への出品札
資料の経歴を知ることのできる一品。引出しに収納されていた。



香時計に使用する道具
香時計本体の引出し内に収納されている。用途により道具を使い分けることで盤面に抹香で複雑な線を描く。



香時計の盤面
ジグザグに置いた抹香のはじへ火をつけ時間経過を測る。



9月21日は松本市博物館の日 今年9月22日(土) 松本まると博物館全館が無料開館!

明治39年9月21日に、松本に博物館が誕生しました。この日を記念して、9月22日(土)は、博物館全館が無料開館となり、記念行事を実施します。

関連事業 第3回 復活 話をさく会

日時 9月22日(土) 午後1時30分～3時 演題 渋沢敬三先生とアチック・ミュージアム
会場 松本市立博物館 2階講堂 一祖父・勢助、父・馨太郎を通してみた一
講師 宮本端夫氏(宮本記念財団理事長) 受講料 200円

関連事業 学芸員の眼で見る 資料の見方・楽しみ方講座

日時 9月15日(土) 午後1時30分～3時
会場 松本市立博物館 2階講堂

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

第12回学都松本・博物館「学芸員松本モノ語り」

日時 9月8日(土) 午前10時30分～正午
会場 松本市立博物館 2階講堂
語り手 草間厚伸(松本市立考古博物館学芸員)
演題 18年目のエリ穴遺跡～いま見つめ直す遺物と実像～
受講料 200円

子規忌展

会期 9月15日(土)～9月23日(日)
会場 松本市立博物館

長野技能五輪・アビリンピック2012開催記念 特別展「ラジオの不思議」

会期 10月6日(土)～11月4日(日)
会場 松本市立博物館2階 特別展示室
観覧料 通常観覧料
(松本城共通券/大人600円、小中学生300円)

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

企画展「いのちのうた

—晩年の窪田空穂と獄窓の歌人・島秋人—

会期 9月29日(土)～12月2日(日)
会場 窪田空穂記念館
観覧料 通常観覧料(300円)

藤澤八段囲碁教室

日時 10月21日(日) 午前10時10分～正午
会場 窪田空穂生家
講師 藤澤一就八段、地元指導者
対象 小中学生
受講料 無料

山と自然博物館から ☎0263-38-0012

鳴く虫観察会

日時 9月22日(土) 午後6時～8時30分
会場 アルプス公園
対象 小学生以上の子どもとその保護者
受講料 大人300円、子ども100円(保険料含む)
申込み 9月10日から電話にて受付
定員 25人

秋の野外観察会

日時 10月13日(土)
午前9時30分～正午まで
会場 アルプス公園
対象 小学生以上の子どもとその保護者
受講料 大人300円、子ども100円(保険料含む)
申込み 10月1日から電話にて受付
定員 25人

考古博物館から ☎0263-86-4710

考古博物館秋季企画展 「施文の美～太古の芸術、縄文土器～」

会期 10月6日(土)～12月9日(日) [65日間]
午前9時～午後5時
(入館は4時30分まで、12月は土日のみ開館)
会場 松本市立考古博物館 第2展示室
観覧料 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

はた織り体験教室

日時 第4回 9月29日(土)
第5回 10月27日(土)
[午前のクラス]10時～正午
[午後のクラス]1時～3時
会場 馬場家住宅門長屋
受講料 各講座1,000円(観覧料込み)
申込み 電話で馬場家住宅まで

布ぞうり作り体験教室

日時 第1回 9月30日(日)
第2回 10月27日(土)
午前10時～午後3時
会場 馬場家住宅主屋
受講料 1,800円(観覧料込み)
申込み 電話で馬場家住宅まで

時計博物館から ☎0263-36-0969

企画展「物語にみる源平合戦 ～國學院大學学びへの誘い～」

会期 9月15日(土)～9月23日(日)
午前9時～午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)
会場 時計博物館3階 企画展示室
観覧料 無料(ただし常設展観覧料が必要)

関連事業 講演会

日時 9月16日(日) 午後2時～3時30分
会場 本町ホール(時計博物館4階)
講師 松尾葦江先生(國學院大學教授)
演題 「ゆれる物語を読む
—平家物語と源平盛衰記」

はかり資料館から ☎0263-36-1191

はかり作り講座

日時 10月28日(日) 午前10時～正午
会場 はかり資料館お休み処
対象 小学校高学年の親子
受講料 2,000円
申込み 電話ではかり資料館へ

松本民芸館から ☎0263-33-1569

講演会「世界を変えた日本人、アンコールワットの森によみがえる村」

日時 10月20日(土) 午後1時～3時
会場 松本民芸館
講師 池田六之助(染織の三六 会長)
受講料 通常観覧料
(大人300円、中学生以下および70歳以上の松本市民無料)
定員 40人
申込み 松本民芸館へ

企画展「民芸のふるさと 李朝展」

会期 10月2日(火)～12月9日(日)
会場 松本民芸館
観覧料 通常観覧料
(大人300円、中学生以下および70歳以上の松本市民無料)

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第110回 サロンあがたの森 「シューベルトの歌曲を楽しむ」

日時 10月6日(土)
午後3時開演(2時30分開場)
会場 あがたの森文化会館講堂
出演 バリトン:太田直樹/ピアノ:白田由香里
曲目 歌曲集「白鳥の歌」全14曲
名曲選—ます・死と乙女・さすらいの人ほか
(日本語字幕付き)
入場料 1,000円(チケットは旧制高等学校記念館で販売)

歴史の里から ☎0263-47-4515

高機で裂き織り体験

日時 10月11日(木)、11月10日(土)
午前10時～正午、午後1時～3時
定員 午前、午後とも各6名
受講料 1,000円
持ち物 裂き織りにしてみたい布(お持ちでしたら)
申込み 歴史の里へ

組織り体験

日時 10月18日(木) 午前10時～午後3時
定員 各6名
受講料 3,000円
申込み 歴史の里へ

松本市立博物館
臨時休館のお知らせ
9月10日(月)、11日(火)
※機械整備工事のため休館します
旧制高等学校記念館
10月9日(火)～平成25年4月26日(金)
※常設展示などの改修工事に伴い、休館いたします。

あとがき

吹く風も涼しくなり、過ごしやすい秋を感じるようになりました。現代人は視覚から多くの情報を得ていますが、秋は虫の声やキノコなどの山菜といった視覚以外の感覚が私たちを楽しませてくれます。五感が鋭く感じる秋だからこそ、博物館へ足を運んで新たな「気づき」に出会うのはいかがでしょうか。(K.I)

あなたと博物館 No.182

発行年月日/平成24年9月1日 編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社